

テスト設計コンテスト U-30 クラス – アピールシート

チーム ID	S230315001	チーム名	つよつよになりたいはんぺん
--------	------------	------	---------------

チームの紹介

この項目ではチームやメンバーの紹介、チーム全体の基本コンセプトを記述します。

チーム紹介

同じ会社の QA エンジニアメンバーで構成されたチームです。
座学的な研修ではなく実務に近い経験でこそ得られるものがある、と過去に参加した上司が教えてくれたため、今回企業チームとして参加することにしました。
全員、品質保証・テスト経験はバラバラなため、今回の参加を通じて自分たちで調べ、学びながら成果物を作成し、テストプロセスを理解していきました。
今はまだ弱い（白くて柔らかい）自分達なので、これから知識をぐんぐん吸収してつよつよになりたい、という由来で「つよつよになりたいはんぺん」とチーム名を付けました。

全体のコンセプト

- ・テストプロセスを理解する
- ・得た知識を実務に活かす

全員、品質保証・テスト経験が浅く、実務でここまでしっかりとしたテストプロセスを経験できる機会もほとんどないため、今回一連のテストプロセスの流れを経験・理解し、実務に活かせる知識や気づきを得ることを目的にした。

※ 全体でA4縦 4 ページに収まるように記述してください。

チームのテスト設計の強み・アピールポイント

・再現性のあるテストプロセスの設計

各プロセスの手順や成果物の導出過程を詳細に言語化することで、システムの拡張に備えるだけでなく、テストベースが変わっても参考にできるものにした。

・経験を活かした、テスト要求分析

メンバーの経験を活かすことで、テスト観点を多面的に出すことができた。

さらに、テストベース仕様書に記載されていない観点を見つけ、多くのフィードバックをしている。

チームの戦略・方針

この項目では、チームの作業の進め方や成果物の特徴を、設問に従って記述します。他文書（審査対象の成果物など）への参照で記述しても構いません。

プロセスの説明

チームのテスト設計のプロセス(テスト要求分析・テスト詳細設計といったアクティビティと、テストケースといった成果物の関連性)の全体像を、モデル(PFD やアクティビティ図など)や文章で示してください

成果物 0 の PFD で表現している。

テストベースからテストケースやテスト手順までのトレーサビリティをどのように確保しているか説明してください

要求仕様、テスト観点、テストケース、テスト手順にそれぞれ番号を振り、要求仕様 No-テスト観点 No、テスト観点 No- テストケース No 、テストケース No-テスト手順 No でトレーサビリティを確保している。

※ 全体でA4縦 4 ページに収まるように記述してください。

--

テストの構造の説明

採用したテストアーキテクチャが一般的なものより優れているポイントを記述してください

どういった分類のテストがあるかを、俯瞰して確認できることで、テスト実行対象の決定や、テストプロジェクトの見直しをサポートしている。

テストベースに対する網羅性の確保(目的を満たすようにテストベースを網羅する)で、どのような工夫をしたか記述してください

要求仕様 No を振り、そこからテスト観点を抽出した。

テスト観点の抽出にあたってはマインドマップを利用し、抽出の過程で網羅性が分かりやすくなるようにした。さらに、画面遷移図・画面遷移表を作成し、そこからもテストケースを導出することで、画面遷移のテストケースが網羅されているか確認している。

また、テストベースからだと明確に操作や期待値が判断できないところや、テストで確認すべきだが明記されていない点も検討し、仕様書へのフィードバックとして記載した。

テストベースに対するピンポイント性の確保(無駄なテストを作らない)で、どのような工夫をしたか記述してください

・無駄なテストを作らない

テスト観点出しでは広く観点を出し、内容が重複した観点はトレーサビリティを保ちつつテストケースでまとめた。また、複雑な計算パターンをデシジョンテーブルで整理することで効率的なテストケースを作成し、さらに同値分割・境界値分析によって、効率の良いテストデータを選択した。

・ピンポイント性

リスク分析を行い、プロダクトリスクを洗い出し、そこからリスクベースのテスト観点を検討

※ 全体でA4縦 4 ページに収まるように記述してください。

した。その際、チームメンバーの検証・開発経験を活かしてバグを推測し、ピンポイントなテスト観点を抽出した。

活用した技法や手法の説明

以下のテスト設計技法のうち、今回使用したものを選択してください(記述内容のうち、使用した技法を残し、使用していないものを削除してください。各定義はJSTQBに従います)

同値分割法、境界値分析、状態遷移テスト、デシジョンテーブル

テスト設計についての既存の方法論(HAYST 法、VSTeP、ゆもつよメソッドなど)や体系(ISO29119、STEP など)で、今回使用したものがあれば記述してください

特になし